
2018 年度 事業報告書

〒202-0022 東京都西東京市柳沢 4 丁目 1 番 3 号



社会福祉法人 東京老人ホーム

目 次

I. 法人の事業経営	1
II. 施設サービス	6
1. 特別養護老人ホーム「めぐみ園」（ショートステイを含む）	8
2. 養護老人ホーム「東京老人ホーム」	10
3. 軽費老人ホーム「東京老人ホーム泉寮」	12
III. 在宅サービス	14
1. 老人居宅介護等事業「めぐみ園ホームヘルプサービス」	16
2. 居宅介護支援事業「めぐみ園指定居宅介護支援事業所」	18
3. 訪問看護事業「めぐみ園訪問看護ステーション」	20
4. 老人デイサービスセンター「デイサービスぽぽたん」	22
5. 富士町地域包括支援センター（西東京市から受託）	24
IV. 事務・管理	26
1. 事務室（総務）	26
2. 事務室（経理）	26
3. 経営管理室	27
4. 食事室	28
V. 地域貢献	30

I 法人の事業経営

2018年度を振り返って

東京老人ホームは、2018年に創立95周年となりました。毎年のことですが12月13日、創立記念日に創立記念を憶え、感謝と共に礼拝をし、創立者たちの願いや思いを改めて思い起こし、「ミッションステートメント」に表明された東京老人ホームの「創立の理念」を繰り返し確認してきました。そうすることによって、東京老人ホームの存在意義を改めて想起し、確認したいと願ってきたからです。

創立百周年も間近です。そういう節目の大切な時を迎えるべく今、私たちは、初心を忘れず、原点に常に立ち帰って、自らの立ち位置を確認し、進むべき道を展望していきたいと考えています。

東京老人ホームのそもそもの出発点は、未曾有の災害となった「関東大震災」にありました。あの震災を実際に体験した人は、震災から94年を経て、さすがに少なくなりましたが、それでも、そのときに学んだ教訓は決して忘れてはならないことです。震災そのものの被害も甚大でしたが、その際に飛び交った流言飛語による被害も少なからずあったと聞いています。いずれにしても、「正確な情報」と「的確な広報」が、そうした災害の際には決定的に重要になります。これは、今日においても確かなことですし、誰もが抱く不安を鎮めるのに最も有効な手段となるのが、「正確な情報」と「的確な広報」です。

東京老人ホームの働きは近年、ずいぶん広がってきました。社会のニーズが変化し、その変化に対応したサービスが必要になってきたからです。これからも、社会の変化やニーズはもっと多様化するかもしれません。そうした変化に、迅速に、そして的確に対応していくことのできるネットワークの良さと柔らかな心を持ち続けたいと願っています。

昨年度について特筆すべきことは、社会福祉法人制度の改革に伴う新しい法人体制も軌道に乗りつつあります。また、公益的な取り組みとしては、公益的な地域貢献の取り組みとして、おひさまカフェ(昨年より、月1回から月2回に)、食事会、ほぼたんカフェ、いきいきさんデーや、地域の団体と連携した防災への取り組みやフードドライブを実施しました。これらは、ニーズに適ったより良いサービスを提供するという当法人の理念の具体化の一環です。その理念は、「利用者、家族、地域の方々と共に、希望、喜び、人間としての誇りを分かち合って生きるコミュニティーの実現」を目指すという「ミッションステートメント」の言葉に表現されています。

事業経営の課題として最優先すべきは、「利用者の方々が安心して、心豊かに毎日を過ごすことができる環境とサービスの提供」です。この実現、充実を常に心がけてきましたし、今後も努力します。その努力が、優秀な人材の確保、定着、そして、専門職として、法人職員としての育成にもつながることと信じています。

地域の方々のご理解とご支援も欠かせないことです。日頃のボランティアの方々のお働きに心から感謝いたします。冒頭に触れた、創立百周年に向けた計画や、建物の老朽化に伴う将来構想も、いよいよ目の前の課題となってきました。課題の具体化も含め、2019年度も、誠実な努力を重ねていく決意です。

理事長 徳野 昌博

(5) 役員会、評議員会の開催報告

① 理事会

番号	開催日時	出席者		議 事
		理事	監事	
1	2018年 5月29日	5名	2名	(1)2017年度 事業報告について (2)2017年度 収支決算について (3)社会福祉充実計画について (4)評議員会の開催とその議題について (5)管理者の人事について
2	2018年 11月15日	6名	2名	(1)2018年度 一般会計収支予算(補正第1号)について (2)富士町地域包括支援センター 2019年度事業計画 (3)管理者の人事について
3	2019年 3月28日	5名	2名	(1)2018年度一般会計収支予算(補正第2号)について (2)2019年度事業計画について (3)2019年度一般会計収支予算について

② 監査

番号	開催日時	出席者		事 項
		(監事)		
1	2018年 5月16日	1名		(1)法人の財産の状況 (2)業務執行状況
2	2018年 5月16日	1名		(1)業務執行状況 (2)施設の運営状況 (3)施設のサービス状況

③ 評議員会

番号	開催日時	出席者		議 事
		評議員	その他	
1	2018年 6月12日	7名	理事 1名 監事 2名	(1)議事録署名人の選任について (2)2017年度 事業報告について (3)2017年度 収支決算について (4)社会福祉充実計画について

(6) 資産及び会計

- ① 経営事業の資産総額 [2019年3月31日現在]
資産総額： 1,327,245,169円
これを6月の評議員会の決議を経て登記する。
- ② 会計決算収支の総計 [2018年4月1日～2019年3月31日]
- | | | | | |
|---------|----|----------------|------|--------------|
| 事業活動： | 収入 | 995,735,654円 | | |
| | 支出 | 950,498,569円 | 収支差額 | 45,237,085円 |
| 施設整備等： | 収入 | 0円 | | |
| | 支出 | 10,569,726円 | 収支差額 | △10,569,726円 |
| その他の活動： | 収入 | 7,363,908円 | | |
| | 支出 | 38,262,879円 | 収支差額 | △30,898,971円 |
| 総計： | 収入 | 1,003,099,562円 | | |
| | 支出 | 999,331,174円 | 収支差額 | 3,768,388円 |
- ③ 法人監事による監査の実施： 2019年5月16日（木）

(7) 会議・委員会の開催

- ① 会議
- | | | |
|------------|-----------------|---------|
| 経営会議 | 毎月 第1.3月曜日 | 午前10時から |
| 統括長会議 | 毎月 最終月曜日 | 午後4時から |
| 管理者会議 | 毎月 最終月曜日 | 午後5時から |
| 在宅部門会議 | 奇数月 第2月曜日 | 午後5時から |
| 養護・軽費統括長会議 | 5.9.11.1月 第1火曜日 | 午後2時から |
- ② 委員会
- | | | |
|---------------|-----------------------|-----------|
| 安全衛生委員会 | 毎月 第2金曜日 | 午後2時15分から |
| 防災委員会 | 毎月 第3火曜日 | 午後3時から |
| 広報委員会 | 毎月 第2火曜日 | 午後4時から |
| ボランティア委員会 | 4.6.7.9.11.1.3月 第4月曜日 | 午後3時から |
| 感染症対策委員会 | 5.8.10.12.2月 第2金曜日 | 午後3時15分から |
| 第三者委員会（苦情・事故） | 6.12月 | |

Ⅱ 施設サービス

(1) 共通事項

① 情報開示

法人発行の季刊誌「いきいきまち」やホームページ、介護サービスの公表制度（インターネット）、第三者評価機関による評価結果報告などによる施設情報の公開をはじめ、利用者やご家族に対しては、各施設からの広報誌で行事などの情報をお伝えしました。

② 苦情解決

苦情・事故に関する報告を、年2回第三者委員へ行い、対策や対応に関する助言をいただき、再発の防止に役立てました。

日常における生活の様子やケアに関する情報を、日頃のご家族来園時などに共有するとともに、利用者懇談会や家族会、意見箱などで意見をお聞きし、把握した課題を共有し、これらの情報を踏まえたより良いサービスの提供を行いました。

③ 職員研修

年間計画に基づき、東京都社会福祉協議会が開催する研修会など、法人外主催の研修への参加し、また、内部研修を実施し、職員個々の資質の向上を目指しました。

④ 身体拘束等の適正化

各施設の身体拘束に関する指針に基づき、身体拘束の適正化の取り組みとして、定期的に「身体拘束適正化委員会」を開催し、あわせて職員研修を実施しました。

1. 特別養護老人ホーム「めぐみ園」(ショートステイを含む)

(1) 運営報告

利用者お一人おひとりが、その方らしい生活を送る事を大切に支援しました。

とりわけ、めぐみ園が利用者にとっての終の棲家であるという視点に重点を置き、日常のケア、各種カンファレンスの他、委員会活動や研修によりケアの質の向上に取り組みました。

(2) 課題と対応

① 終の棲家としてのケアの実施

最期までその方らしい生活を送れるよう利用者及びご家族の思いを尊重した支援をしました。

② 日常的な支援の在り方の見直し

基本的ケアの見直しを行い、特に安全な食事介助についての考え方や食事時の適切な座位と姿勢について職員間で共有し実践することで自力摂取の継続に繋がりました。

③ 医療をはじめとする他職種との連携の強化

各専門職が連携して日常の生活や健康への支援を実施しました。とりわけ、リハビリや栄養において、介護、医療、栄養が共有する計画を基に支援にあたりました。

④ 尊厳・権利擁護の視点に立ったケアの実施

苦情や要望については、その都度速やかに対応しました。また尊厳や権利擁護について、部署内研修等で学び、利用者の立場に立ったケアを実践しました。

⑤ 地域とのつながり・地域貢献

近隣の小中学校の運動会の観戦や中庭で行われたぽぽたんカフェ等の行事での地域住民との交流など、施設内外で地域とのつながりの機会を持つことが出来ました。

⑥ リスクマネジメントの取り組み

利用者の安全な生活を支えるため、感染症予防研修や事故防止研修等を行ない、対応方法の標準化を図りました。

⑦ 職員の能力の向上

めぐみ園研修計画を基に部署内研修や外部研修に参加しました。また、係りなどの役割分担を見直し、効率良く業務が行えるよう業務改善を行いました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

利用者やご家族からの苦情等について都度対応し、再発防止に取り組みました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	1件	6件	2件	0件	9件

② 事故の再発防止に対する取り組み

軽微な事故についても報告し、職員間の再発防止対策の共有を図りました。また、年2回、介護事故に関する研修を実施し職場全体の事故対策の意識や知識の向上に努めました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体 に係る事故	その他	合計
事故件数	124件	35件	222件	50件	431件

(4) 年間行事報告

年	月	内容
2018	5月他	変わり湯（7月桃湯、10月バラ湯、12月に柚子湯、1月ヒノキ湯、3月リンゴ湯）
	6、10	お買い物イベント
	7	七夕飾りつけ
	9	敬老祝賀お食事会
	10、3	家族会（食事に関する勉強会、利用料改定についての説明等）
	12	クリスマスランチ

(5) ショートステイサービス

介護者不在や退院後のサービス調整のためなど長期的にショートステイを利用するケースが増加しました。引き続き、高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるようにサービスを提供していきます。緊急ショートステイ事業においては利用者やその家族関係者の状況を把握し行政等と連携を取りながら利用者の早期課題解決に努めました。

(6) 実習生

各教育機関と連携し、社会福祉士（4団体4名）と栄養士（1団体4名）の実習を受け入れました。

2. 養護老人ホーム「東京老人ホーム」

(1) 運営報告

法人理念に基づき利用者の「個人の尊厳」を大切に、プライバシーとプライドを尊重した支援に努めました。一人ひとりのニーズに沿った支援を行っていくために、ソーシャルワーク研修を継続して実施しました。加えて、本年度から精神科医師によるコンサルテーションを開始し、支援力の向上を図りました。

(2) 課題と対応

① 個別サービス計画の作成と個々の生活課題に即した支援

個別サービス計画の作成・見直しについては生活相談員、各居室担当を中心に行いました。毎日のミーティングで検討された個々の支援に関することについては職員間で共有し、計画にも反映しました。

② 精神的ケアを必要とする利用者の支援

精神疾患を有する利用者が安定した生活を継続できることを目的に精神科医師の協力のもとコンサルテーションを毎月2回のペースで実施しました。利用者個々に関する具体的な対応の検討等を通じて、より良い支援に結び付けることができました。

③ キーパーソンとの関係

行政とも連携を図りながら、利用者とキーパーソンとの関係の整理を行いました。協力が得られる方については、利用者の生活の変化等について情報共有し、役割意識を持っていただけるよう働きかけを行いました。

④ 法人内の軽費老人ホームとの連携

体操教室や健康美容塾などのクラブの共有や夜間緊急時の協力体制については引き続き相互で趣旨を理解しながら運営を行えました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

利用者懇談会や施設内に設置しているご意見ボックスを本年度も活用し、意見や要望を挙げやすい環境づくりに努めました。利用者から挙げられた意見・要望等については早期に検討し、対応を行いました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	3件	3件	0件	0件	6件

② 事故の再発防止に対する取り組み

居室や外出先での転倒の発生が多く原因の特定にあたっては認知症や精神疾患を有しており状況が確認できないケースも多く見られました。日頃の言動や習慣などから利用者の事故の状況を想像し、要因の検討を行い再発防止に努めました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	30件	0件	2件	0	32件

(4) 年間行事報告

年	月	内容
2018	4	お花見ドライブ
	5	菖蒲湯・もったいないガーデン・外食会・介護予防講習会・体力測定
	6	外食会・大掃除
	7	おしゃべり音楽会
	8	介護予防講習会
	9	紅白遊技大会・ひがしふしみ保育園交流会
	10	日帰り旅行
	11	実りの秋のお食事会・体力測定
	12	ゆず湯・クリスマスを祝う会・クリスマスランチ・大掃除
2019	1	新年会
	2	外食会
	3	外食会・介護予防講習会

(5) 介護予防への取り組み

利用者の閉じこもり防止、体を動かす習慣作りとしてプレイデイ体操など複数のプログラムを提供しました。介護予防講習会では生活リハビリや口腔ケア、食事と病気に関する講習を実施しました。年2回体力測定を実施しました。

(6) 医療的支援の充実

通院が困難な利用者が適切に医療を受けられるように本年度より従来の内科、歯科、眼科の往診に加え、皮膚科、精神科について往診体制を整えました。

利用者の状態を明確に把握できるように医療に関する情報を整理・集約しました。

3. 軽費老人ホーム「東京老人ホーム泉寮」

(1) 運営報告

法人の理念に基づき、お一人おひとりがそれまで築いてきた生活スタイルを変えずに、地域の一員としてその方らしく暮らせるように努めました。要支援・要介護の認定を受ける利用者が6割を超える状況を踏まえた支援を実施する一方、フレイル予防のための活動の実施や、情報提供に努めました。

(2) 課題と対応

① 社会生活の持続支援

泉寮での生活が、地域住民の一員として社会生活が営めるように、また、他の入居者との交流の機会などのため、クラブ活動への参加、自主活動の機会の提供、地域の社会資源の紹介などを行いました。

② 医療・介護サービスとの連携

要支援・要介護の利用者も増え、必要な医療や介護保険等のサービス利用が適切に提供されるよう地域・機関の多職種や保証人との連携に努めました。

③ 精神症状に応じた支援能力のスキルアップ

精神疾患や認知症などによる生活上の課題といった、多様化するニーズに応えるため、職員の専門的知識向上のための研修を行いました。

④ 利用者と職員の安全への取り組み

利用者の転倒事故や職員の業務上の事故による怪我などの防止のため、事故の危険性の把握、ヒヤリハットの分析、事故の繰り返し予防対策などに取り組みました。

⑤ 法人内養護老人ホームとの連携

業務記録作成などを効率的に行うため、また、合同開催の行事やクラブ活動についても法人内養護老人ホームと連携し、協議を重ねています。

⑥ 将来構想の検討

老朽化した建物の今後の計画を検討するため、現在の軽費老人ホーム利用者の状況についての整理を始めました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

サービス提供、特に共用部の使い方に関する要望が多く、その都度職員間で話し合い、共用部のルールを設定し利用者懇談会や掲示で周知をしました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	3件	10件	1件	なし	14件

② 事故の再発防止に対する取り組み

転倒事故が最も多く、同じ利用者が転倒を繰り返す傾向がありました。継続的に家族や関係者と状況の共有を図りながら、再転倒のリスク軽減に努めました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	43件	4件	3件	1件	51件

(4) 年間行事報告

年	月	内容
2018	4	お花見
	5	介護予防講演会、大掃除、ひがしふしみ保育園交流会
	6	日帰りバスハイク、体力測定
	7	納涼会、外食会、七夕飾り、給食懇談会、ひがしふしみ保育園交流会
	8	外食会、作品展準備（合同作品）、利用者健康診断
	9	作品展出展、外食会、介護予防講演会
	10	映画鑑賞会、外食会、健康勉強会、道徳授業地区公開講座参加（保谷第二小学校）
	11	ひがしふしみ保育園交流会、外食会、クリスマス飾り
	12	干支づくり、大掃除、クリスマスランチ、正月飾り
2019	1	新年会
	3	給食懇談会、ひがしふしみ保育園交流会、外食会、介護予防講演会、健康勉強会

(5) 介護予防への取り組み

要介護状態にならないために体操その他の活動を実施し、また、介護予防に関する講演会を開催して、利用者の心身機能の維持・向上に努めました。

Ⅲ 在宅サービス

(1) 共通事項

① 情報開示

法人発行の季刊誌「いきいきまち」やホームページ、介護サービスの公表制度（インターネット）、第三者評価機関による評価結果報告などによる各在宅サービス情報の公開を行いました。

② 苦情解決

苦情発生時は迅速な初期対応に努め、早期解決を図りました。サービスの質の向上に向け、苦情解決までの対応や第三者委員会での助言を部門内で共有しました。課題でもあるコミュニケーション・接遇マナーについて部門全体でスキルアップを図りました。

③ 職員の資質向上

各部署単位で計画的な研修を実施するとともに、個々の職員の育成状況に合わせた助言、指導を行う等、柔軟かつ継続性をもって資質の向上を図りました。また、在宅部門研修（高齢者虐待防止）を実施、情報共有及び支援時のポイントについて共通認識を図りました。

④ ケアチームの連携強化

利用者の望む生活に向け、ケアチームの連携を強化し、医療及び介護の専門的見地から検討を重ね、支援を実施しました。また、看取り支援時などは、スピーディーかつ細やかな連携で利用者及びご家族への支援を行いました。

1. 老人居宅介護等事業「めぐみ園ホームヘルプサービス」

(1) 運営報告

利用者・ご家族の心身の状況を踏まえ、その方らしい生活が実現できるよう可能な限り利用者本人の自立と生活機能の維持の視点でサービス提供を行うとともに、介護支援専門員やその他の関係機関との連携を図り、住み慣れた在宅の生活維持に向けて支援を行ってまいりました。

(2) 課題と対応

① 医療ケースへの対応力向上

介護度の高い利用者への支援体制を構築していく中、主に若年層職員の育成に力を入れ、医療知識の習得及び現場同行（指導）を実施し、対象職員についてはある一定の成果をあげることができました。次年度もさらなる対応力向上を目指します。

② 個別研修の充実

各職員と個別面談を実施し、個々のレベルに合わせた研修を実施し、スキルアップを図ることができました。

③ 法人内各部署との連携強化

法人内部署間の強みであるスピーディーな連携が図られたことで、利用者の心身の状態変化及び生活実態に即した支援を行うことができました。

④ リスクマネジメントの徹底

ヒヤリハット報告及び事故報告、危険予知トレーニングを実施し、リスクの共有・軽減を行いました。次年度についてもさらなるリスクマネジメント強化の取り組みを進めていきます。

(3) 苦情・事故報告

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0	0	0	0	0

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	0	0	0	5	5

① 事故の再発防止に対する取り組み

全職員が参加するミーティングにて事故内容の共有及び再発防止策についての検討を行うとともに、当該事故に対してのリスクポイントを共有し、同様の事故に関しての予見能力向上に取り組みました。

(4) 年間報告

年	月	内容
2018	5	武蔵野市訪問介護事業者連絡会
	6	西東京市訪問介護分科会 東京都『指定居宅サービス事業者等の運営状況等確認検査』実施に係る説明会
	9	西東京市訪問介護分科会
	10	東京都国保連主催介護サービス事業者研修会 武蔵野市訪問介護分科会
	11	在宅部門研修『高齢者虐待について』
	12	西東京市訪問介護分科会
2019	1	東京都権利擁護研修 西東京市訪問介護分科会 武蔵野市居宅介護合同研修会（集団指導）
	2	指定更新事業者研修会 西東京市訪問介護分科会 武蔵野市訪問介護事業者連絡会（研修会）
	3	武蔵野市訪問介護事業者連絡会

※全体研修（ヘルパーミーティング）及びサービス提供責任者会議については毎月実施
個別研修についても、年間計画に則り実施

2. 居宅介護支援事業「めぐみ園指定居宅介護支援事業所」

(1) 運営報告

2018年度は終末期の在宅看取り、虐待等の困難事例の相談支援業務を積極的に実施してまいりました。又、医療・介護の連携を強化するため、医療連携室、訪問医療との情報共有を密に行い、「その人らしく住み慣れた地域での生活の維持」を支援してまいりました。又介護保険制度改正に伴い、改めて運営基準、法令等確認しあい、適切なケアマネジメントと質の向上を目指しました。

(2) 課題と対応

① 利用者の自立支援、自己実現

利用者、ご家族の望む生活と生活課題を一緒に考え、残された能力（強み）をいかしていく視点で課題分析を行い生活の質の向上に向け支援を行いました。それまでの歴史や背景の理解に努め、目標を一緒に考え自立支援に向けた支援を行いました。

② 介護支援専門員の資質・専門性の向上

所内研修では様々なテーマを設け研修及び事例の検討を重ねケースの全体化と資質の向上を目指しました。自立支援に向け幅の広いニーズを導きだせる様、リ・アセスメントの研修の継続、その他外部研修にも参加し所内で共有と学びに繋げました。

③ 他職種・地域との連携

在宅の看取り、医療依存度が高い利用者に適宜対応できるよう、医療連携シート活用に加え、連絡を密に行い入退院時に備えました。虐待ケースが増加している為、包括支援センター、市役所、並びに関係機関との連絡の強化に努めました。

④ 法人内施設との連携強化

法人内の各施設サービス窓口を通じ、情報の共有と連絡調整を行い重度化に即した支援を行いました。要介護者が増加している中で今後も連携を密に行ってまいります

⑤ リスクマネジメントの徹底

ヒヤリハット、事故報告、KYT研修を所内で検討し、振り返りと評価を行い安全確保に繋げました。次年度も更に強化の取り組みを行います。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

速やかに情報を収集したうえで対応し、調査、検討、共有し再発防止に努めている。利用者・ご家族の言葉や表情を読み取り丁寧な対応につながるよう今後も努めます。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	2	1	0	0	3

② 事故の再発防止に対する取り組み

区分その他は事業者への連絡ミスによるものでした。各関係事業所との情報共有と連携を密に行う事、又、事故を未然に防ぐため再確認を行うことの徹底化を行った。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	0	0	0	3	3

(4) 年間報告（年間回数）

- * 西東京市居宅分科会（11回）
- * 西東京市認知症初期支援チーム部会（2回）
- * 西東京市主任ケアマネ質の向上部会（11回）
- * 西東京市主任ケアマネ全体会（1回）
- * 西東京市質の向上コア会議（7回）
- * 西東京市ケアプラン点検研修（1回）
- * 西東京市南部圏域事例検討会（5回）
- * 西東京市中部圏域事例検討会（5回）
- * 西東京市居宅介護支援事業所管理者研修（1回）
- * 西東京市認定調査研修（1回）
- * 東京都CMA T研修（3回）
- * 武蔵野市地区別ケース検討会（5回） * 武蔵野市勉強会（2回）
- * 三市合同虐待事例検討会（2回）
- * 三市合同認知症事例検討会（特定加算要件研修兼）（2回）
- * 南部圏域・中部圏域勉強会（各4回）
- * 西東京市介護保険連絡協議会全大会（1回） * 西東京市若年認知症研修（1回）
- * 武蔵野市実地指導研修（1回）

(5) 特定事業所加算

加算事業継続の要件である介護支援専門員実務研修の実習生の受け入れを積極的に行いました。また他法人との事例を通じての研修の継続も行っています。

3. 訪問看護事業「めぐみ園訪問看護ステーション」

(1) 運営報告

利用者・介護者の状況を踏まえ、寄り添う看護を大切に、住み慣れた生活の場でその方らしい生活が営まれるよう尊厳を守るケアの実現を目指し訪問看護事業を行いました。

(2) 課題と対応

① 利用者・介護者に安全と安心を提供できる支援体制の更なる構築

専門性の高い看護を実践するために、モバイル端末の活用やミーティング及びケースカンファレンスでの細やかな情報共有、リスクマネジメントを踏まえた支援体制を構築するとともに、看護上の適切なアドバイスを行いました。

② 利用者一人ひとりの尊厳ある生活が保たれるケアの追求

利用者及び介護者の意思決定を支えるため、個々の職員が一人の人間としてのマナー・モラルを守ることを意識し合う機会を設けるとともに、尊厳の保持や全人的に関わられているかどうかなど倫理に関わる研修を行いました。

③ 在宅看取りケアの質の向上

最期まで利用者・介護者の希望が叶う看取りを目指すために、全職員の看護知識・技術、アセスメント能力についてのスキルアップを図りました。また、看取りケアで重要な多職種間との連携の役割も担い、看取りケアの向上に努めてきました。

④ 訪問看護の普及と後進の育成のための働きの継続

訪問看護の働きを継続できるようライフワークバランスを意識した職場環境作りを目指してきました。これについては次年度も継続し、業務分担の適正化及び助け合える職場環境の構築を図っていきます。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

ケア中に利用者の表情や言葉で、いつもと違う様子の方は、他の訪問看護師が訪問した際との相違を確認し、所内で早めに情報共有し対策を立案しました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	1	0	0	0	1

② 事故の再発防止に対する取り組み

所内ミーティングで事故原因を共有するとともに、事故の予見能力を上げる取り組みを行いました。また、思い込みや慣れが生じたときにヒューマンエラーによる事故が起こりやすいことを訪問看護師間で共有を図りました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	0	1	1	6	8

(4) 年間報告

年	月	内容
2018	5	東京都指定訪問看護事業所集団指導
	6	褥瘡の予防をケア
	6	在宅難病患者訪問看護師養成研修
	7	医療・介護保険請求業務研修
	7	多職種で学ぶリンパマッサージ

4. 老人デイサービスセンター「デイサービス ぽぼたん」

(1) 運営報告

デイサービスぽぼたんは一日定員 10 名の小規模なデイサービスのメリットを生かし、一人ひとりの心身の状態を把握し利用者に合ったケアを実践しました。通所時に利用者の状態観察を行い、変化があった際はすみやかにご家族や介護支援専門員及び関係機関への情報提供を行うなど連携を図りました。また、ご家族とのコミュニケーションを図る際、ご相談・ご要望なども積極的に承るよう努めてきました。

(2) 課題と対応

① ボランティアについて

昨年度より継続して保育園との交流を実施し、保育園児とともに歌やゲームを行うなど世代間での関わりを持ちました。また、法人のボランティア委員会や地域のボランティアとの連携を図り、利用者同士、職員以外との交流を図りました。

② 法人内の養護老人ホーム、軽費老人ホームとの連携

当法人内施設利用者含め 10 名の利用者が通所され、閉じこもり予防や下肢筋力の低下予防など現状の生活が維持できるよう支援を行いました。また、ホーム内の行事や病院受診などの場合は送迎時間の調整を行うなど、柔軟に対応を行いました。

③ 認知症ケア

西東京市の認知症支援の研修を行いました。研修を通して、ぽぼたんの役割を再確認し、利用者に寄り添い、小規模ならではのケアの実践に努めてきました。

④ リスクマネジメント

デイサービスは送迎等で車を利用する部署であり、KYT(危険予知トレーニング)を行いました。安全運転が継続して実施出来るよう注意すべき事項や危険場所の共有を行いました。

⑤ 社会資源の活用と地域交流

近隣住民の方々や保育園、大学との交流を図り、地域に根差した支援を行いました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

送迎時間の遅延連絡に関してご意見を頂きました。交通渋滞や悪天候時など、利用者の送迎時間が遅延する場合は、可能な限りすみやかに連絡を行うよう職員間で共有を図りました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	1件	1件	0件	0件	2件

② 事故の再発防止に対する取り組み

転倒、転落・服薬などの事故防止策として、利用者に対する介護方法を共有するとともに、職員自身の介護技術の見直し、向上に努めました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	6件	3件	0件	2件	11件

(4) 年間報告

年	月	内容
2018	4	お花見
	5	柳沢保育園交流
	8	夏祭り
	10	ミニ運動会
	12	クリスマス会
2019	1	新年会
	2	節分

5. 富士町地域包括支援センター（西東京市から受託）

(1) 運営報告

富士町地域包括支援センターは高齢者が住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続できるよう、心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行い、保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援します。2018年度においても、西東京市との委託契約に基づき、事業及び業務を実施しました。

(2) 事業内容

① 総合相談支援業務

地域の高齢者に関するさまざまな相談を受け、実態把握の上、適切な制度・サービスにつなぎ、継続支援を行いました。年間の相談件数は3854件となっております。相談内容は介護保険サービス、医療、高齢者虐待、認知症等の順に多くなっています。

② 権利擁護業務

高齢者や地域住民・民生委員から多数の相談がありました。年間20件の虐待ケースに対応しています。その他、権利擁護や消費者被害に関する支援を行いました。

③ 包括的継続的ケアマネジメント業務

ケアマネジャーの実践力向上に向け、事例検討会、研修、後方支援を実施しました。また、関係機関との連携体制の構築に向け積極的に情報共有を行いました。

④ 介護予防ケアマネジメント業務

要支援1・2、事業対象者の認定を受けた利用者を対象とするケアプラン作成・給付管理を行いました。2018年度のケアプラン数は1713件となっています。地域住民・団体への介護予防普及啓発を19件実施しています。

⑤ 在宅介護支援業務

台帳整理・訪問等による在宅介護の方法について指導・助言を行っています。

⑥ 地域ケア会議

困難事例・自立支援に向けての地域ケア会議Ⅰを3件、専門職等による地域ケア会議Ⅱを4件行いました。地域ケア会議Ⅱを通して介護予防教室を立ち上げています。地域ケア会議Ⅲに出席し、認知症高齢者の徘徊時の早期発見に向けて検討しました。

⑦ 認知症総合支援事業

認知症サポーター養成講座を6件実施しています。認知症を知る1か月キャンペーン

ンでは、講座・あんしん声掛け体験・パネル展示を実施しています。認知症カフェや家族会を運営しました。また、認知症カフェの立ち上げを検討しています。

⑧ 生活体制整備事業

ささえあい事業との連携として、高齢者の安否確認時の協力、ささえあい養成講座・ステップアップ講座では講師として協力しました。

⑨ フレイル予防事業

フレイルチェックに出向き、フレイル状態の高齢者を把握しました。後日訪問し、地域のサロン等につなげ、モニタリングしています。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

職員の態度への苦情あり。包括職員・専門職としての立場を考え、利用者・地域・関係機関への接遇に気をつけるよう振り返り、共有しています。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0	0	0	1	1

② 事故の再発防止に対する取り組み

イベント開催時、高齢者の見守り体制が不十分であり一時行方不明となるケースがありました。運営側で目的やフォロー体制等を確認、安全面の検討を行いました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	0	0	0	1	1

(4) 年間報告

全 402 件、うち主催・共催が 305 件。会議 246 件、研修 35 件、講師 31 件、参加・受講 68 件となっています。

(5) その他 実習生受け入れ

武蔵野大学看護学部（1名・計1日）・社会福祉学部（2名・計28日）、国立看護大学校看護学部（4名・計11日）、立教大学社会福祉学部（1名・計12日）

IV 事務・管理

1. 事務室（総務）

(1) 運営報告

事務室（総務）は、運営とサービス提供の担い手である職員の職場環境（ハードとソフト）の整備、新規職員の採用活動および帰属意識の浸透と定着を中心に下記の通り計画を実施しました。

(2) 課題と対応

① 働く環境の改善

職場環境プロジェクトにて各部署からの意見をもとに検討を重ね、ワーカールーム、更衣室のリフォーム、また暑さ対策として建物の窓ガラスへの遮熱フィルムの一部施工とウォーターサーバーの導入をしました。

② 人材の確保と育成

インターンシップを実施する高齢者福祉施設がここ数年で劇的に増えたことに伴い、予定していた学生の参加が確保できず、次年度以降は更なる改善・検討を要する結果となりました。

なお、採用後の職員についてはエルダー制度による丁寧な育成により、定着率が着実に伸びています。

③ 「次世代育成支援」に対する取り組み

2017年度より次世代育成支援推進法に基づく一般事業主行動計画として、「子ども参観日」を実施しています。

二年目となる2018年度においては、法人の地域イベント「いきいきさんデー」に職員の家族を招待し職場を見学して頂くことを通し、家族の理解の深耕を図りました。

2. 事務室（経理）

(1) 運営報告

事務室（経理）としては、以下の通り、予算執行状況を月次で管理し、必要な対応を行いました。

また、消耗品については、業者や品目別の価格見直しをし、コストダウンに努めました。

(2) 課題と対応

① 予算管理

各事業所の予算執行状況と今後の予定を併せて把握できるよう、月次管理表を作成し、毎月の管理者会議にて報告を行いました。

② 消耗品等のコストダウン

オムツ、ペーパータオル等の事業消耗品について、業者の見直しを行い、大幅なコストダウンに努めました。

また、事務用品については、品目の指定を行うことによりコストダウンにつながりました。

③ 事務の効率化

施設職員が、効率的に経理職員と事務処理面で連携できるよう、書式の一部見直しを行いました。

3. 経営管理室

(1) 運営報告

収入と支出のバランスを注視しながら、施設運営に必要な設備機器の更新を、優先順位を踏まえ実施しました。寝具リースや害虫駆除等の委託業者について契約内容を見直すと共に、複数業者による見積比較、自主修繕の取り組み、割賦やリース契約による資金調達等により、効率的な資金活用に努めました。

(2) 課題と対応

① 大型設備の更新検討

将来的に必要となる大型設備の更新に備え、ナースコールや電話交換機、自動火災報知設備等について更新費用の把握に努めました。また、近隣波及事故防止のため、高圧ケーブル更新・UGS 設置等について費用や必要性、工事方法等具体的な検討に取り組みました。

② 長期修繕計画に基づく更新

長期修繕計画に基づき、1.2.5 階食堂の天井照明を LED 照明に更新し、老朽化していた 1.2 階の汚物除去機も更新しました。

③ 用途変更手続き

東京都の指導検査の結果を受け、地下霊安室を女子更衣室へ、4 階リネン室を汚物処理室へ、5 階リネン室を物品倉庫へ用途変更する届け出手続きを行いました。

4. 食事室

(1) 運営報告

栄養バランスのとれた食事作りを心掛けるとともに、お食事から季節を感じていただけるよう、旬の食材を取り入れた献立作りに取り組みました。また、利用者お一人おひとりの状態に合わせた食事を提供することで、健康の保持増進に努めました。

配食サービスにおいては、おいしく安全な昼食を定期的にお届けし、当該高齢者の健康状態の把握及び安否確認を行うと共に、孤独感を緩和することで、住み慣れた場所で安心して暮らす事の出来る環境作りを支援しました。

(2) 課題と対応

【施設】

① 食べやすい食事の提供

嚥下・咀嚼能力が低下した利用者でも食べられるよう、食材・切り方・調理方法の変更を行い、利用者が食べやすい食事の提供に取り組みました。

② 温冷配膳車を取り入れた食事の提供

温冷配膳車で使用できる献立への変更、対応した食器への入れ替え等を行い、温冷配膳車を取り入れた食事の提供を行いました。

③ 安全な職場環境への整備

職場内での事故0を目指し、「注意喚起の見える化」、「腰痛ベルトの配布等」、職場環境の整備を行い、2018年度労災事故を0件にすることができました。

【配食サービス】

① 安否確認

「継続的に訪問し安否確認をする配食サービス事業」を通じて、住み慣れた住まいでの生活を安心してすごして頂けるよう努めました。

② 孤独感の緩和

配達員・栄養士で利用者の情報を共有し、利用者への対応に活用することで、利用者の孤独感の緩和に努めました。誕生日のメッセージカードも大変好評でした。

③ 制限食の対応の整備

利用者・家族からの制限食に対する要望に応えるため、「カロリー制限」「塩分制限」の対応をマニュアル化しました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

アンケートや聞き取り調査を実施し、利用者ニーズの把握に努め、苦情の発生防止に取り組みました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0件	0件	0件	0件	0件

② 事故の再発防止に対する取り組み

過去に発生件数が多かった異物混入事故の対策を日々実施し、再発防止に取り組みました。定期的に調理員へ対策を指導することで、事故防止への意識を高めました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	0件	0件	0件	5件	5件

(4) 年間報告

年	月	内容
2018	4	配達員研修・職業倫理と法令順守研修・自転車安全講習
	6	感染症研修
	7	マナー・モラル研修
	11	感染症研修
	12	マナー・モラル研修
2019	2	KYT研修

(5) 会食の実施

閉じこもり防止や孤独感を緩和する目的で、配食サービスを利用されている方を東京老人ホームの別館にお迎えし、会食を実施しました（年5回実施）。お花見ドライブ、コンサート等趣向を凝らし、新規参加者を増やすことが出来ました。

(6) 「デイサービスぽぽたん」への配食サービス

当法人が運営する「デイサービスぽぽたん」に継続して昼食の提供をしています。季節を感じて頂ける「行事食」、利用者皆さんによる「手作りおやつ」、2種類の食事からその場でお選びいただく「選択食」等を楽しんでいただきました。

V 地域貢献

(1) 活動報告

法人独自の取り組みを継続的に進めるほか、外部の組織と連携して、積極的に地域貢献に努めました。

(2) 活動内容

① おひさまカフェ

おひさまカフェでは、物忘れがありそれを自覚している地域にお住いの高齢の方々がカフェのスタッフの一員となり、来客者におもてなしをしています。

2015 年度より開始したこの活動を通して、参加されている高齢者の方が、自主的に役割を持って活躍できる場の提供と支援を継続的に行っています。

2018 年度実施回数：毎月第一・第三日曜日を原則として延べ 18 回

② いきいきさんデー

2005 年より毎年 10 月に実施している「いきいきさんデー」は、地域への専門性の発揮を軸に、地域への周知と施設開放、地域との一体感の醸成を目的としています。

2018 年度は、介護の体験会的要素を取り入れた企画を通し、特に地域の子ども達へ専門性を生かしたメッセージを発信することができました。

③ 地域との連携

市内の「社会福祉法人連絡会」の一員としてフードドライブに参画し、地域のニーズへの対応 ～家庭的・経済的な課題を抱えた子供たちへの支援～ を図りました。

また公民館主催の地域防災講座「防災まち歩き」に協力し、災害時における法人の働きや高齢者向けの備蓄品の説明、車椅子の講習等を行い地域住民へ貢献することができました。